

## アーティセンが NFV/SDN、キャリアクラウド、放送ネットワーク、産業用、および軍事/航空宇宙用アプリケーション向けの MaxCore プラットフォームを発表

日本東京 - 2015年6月10日 - 本日 Connected

Media Tokyo で [アーティセン・エンベデッド・テクノロジーズ](#) は、放送、ネットワーク、クラウド、産業、および軍事/航空宇宙設備プロバイダによる

SDN/NFV、仮想化マルチスクリーン動画インフラ、OTT 動画、WebRTC、VoLTE などのハイパフォーマンスネットワークコンピューティング機器の展開の簡素化と短期化を可能にする MaxCore<sup>™</sup>アプリケーション対応プラットフォームを発表しました。産業用アプリケーションには半導体製造などが含まれ、軍事/航空宇宙アプリケーションにはレーダーやソナーシステムも含まれます。



アーティセンの Silver Lining<sup>™</sup>ソフトウェアなどの業界標準ハードウェアおよびソフトウェアビルディングブロックを使って、お客様は OTT 動画管理コストを削減し、放送、ストリーミング、ネットワーク、および通信の新世代技術をサポートするインフラを構築できます。

汎用 MaxCore アーキテクチャにより、通信事業者は、単一プラットフォーム上で音声またはビデオトランスコーディングなどの、高密度単機能機器の構築や複数の独立した仮想ネットワーク機能 (VNF) の構築ができます。3U ラック取り付け可能な筐体に入れられ、キャリアグレードインフラでのシステム構築用に設計されたアーティセンの MaxCore プラットフォームは、必要に応じて拡張可能なだけでなく、クラウドインフラの資本支出や運用支出の削減に役立ちます。サーバープラットフォームには、サーバカードまたはネットワーク I/O カードとして柔軟に構成できる最大 15 枚のアドインカードを取り付け可能で、高パフォーマンスかつシンプルなケーブル不要の構成で接続できます。

「最新マイクロサーバや小型ブレードのハイパフォーマンスコンピューティングシステムは今まで、一種の専用機器の独占状態でしたが、お客様からはそこから抜け出たいという声をいただいていた。」と、アーティセン・エンベデッド・テクノロジーズのサーバ加速化マーケティング部長の Linsey Miller は述べました。「新型 MaxCore プラットフォームにより、この種の市場で初のオープンで標準ベースのオプションが可能になります。お客様は、アプリケーション専用のハードウェアプラットフォームを複数持たずに、資本支出と運用支出を保管できるようになりました。アーティセンのソリューションは、Silver Lining ソフトウェアと組み合わせることで、SDN 用の OpenFlow や NFV 用の OpenStack をサポートしながら、通信事業者ネットワークのエッジからコアまで、複数のコンピューティングやメディア処理オフリング全体に拡張できますので、サービスプロバイダは共通の拡張可能ハードウェア上で、ePC、ファイアウォール/セキュリティ、DPI、セッションボーダおよび OTT 動画仮想アプリケーションを実行できます。

Artesyn SharpStreamer™ アドインアクセラレータカードによりフル構成された単一の 3U MaxCore プラットフォームは、1080p HD 動画の最大 616 のストリームをサポート可能です。これはラックユニットあたり 200 以上に相当します。同等のサーバプラットフォームでは、ラックユニットあたり 90~110 の HD 動画ストリームと主張していますが、標準ラック取付サーバを使った業界平均は、ラックユニットあたり 5.54 ストリームです。1G. 711~G. 729 セッションで測定したスピーチトランスコーディングでは、通常の標準的なサーバはラックユニットあたり最大 4,600 をサポートするのに対し、MaxCore プラットフォームではラックユニットあたり 31,000、フル 3U システムで 93,000 をサポートします。標準的なラック取付サーバは小規模な密度要件に適していますが、アーティセンの MaxCore プラットフォームは、クラウドや高密度展開に最適化されています。Artesyn MaxCore プラットフォームは、密度が高く柔軟なためフロア面積や消費電力を著しく節減するだけでなく、1U サーバと比較して 14 倍ものパフォーマンス密度、最大 75% の設備コスト節減、90% 以上の電力・冷却コストの節減など、非常にコスト効果が高いビデオトランスコーディング用スケールアウトインフラとなっています。

MaxCore プラットフォームは、オープン技術をベースにしたクラウドインフラや管理ソフトウェアを使って、最大 30 個の Intel® Xeon® プロセッサ D デバイスを搭載できる高密度の汎用ハードウェアアーキテクチャを統合します。この組み合わせによって、SDN/NFV インフラ、放送およびストリーミング設備、音声ビデオトランスコーディングソリューションなどの、ハイパフォーマンスコンピューティングネットワークコンピューティングアプリケーションの展開を簡素化および加速できます。

アーティセンの MaxCore プラットフォームは、標準的なラック取付サーバと専用機器の間のギャップを埋めるように設計されています。

従来型のラック取付サーバは、少数の PCI Express I/O カードを搭載した単一ホストプロセッサか、ローカル I/O 拡張機能がないか最小限の複数の独立サーバノードを仮定しています。

MaxCore プラットフォームは、ケーブルなしで接続するアーティセンのマイクロサーバーカード、メディア加速化アドインカード、サードパーティの PCI Express カードをどのように組み合わせても最大 15 枚までサポートするように、柔軟に構成できます。このプラットフォームでは、開発者が複数の接続サーバーを同じ筐体の実装できるように、ExpressFabric®という新型 PCI Express スイッチング技術をベースにした革新的な内部アーキテクチャを使用しています。インテグレートは、いくつかの独立サーバードメインを同じ筐体に作成するか、独立プロセッサでネットワーク入出力カードなどの PCI Express カードを共有できます。

アーティセンの MaxCore プラットフォームは、90-264 Vac または -48 Vdc 電源で作動でき、冗長なホスト切り替え可能冷却ファンと電源を搭載していますので、通信セントラルオフィス、ネットワークデータセンタ、または IT 設備環境の展開に最適です。

1. データは、フロスト&サリバンの 2014 年グローバルメディアおよびエンターテインメントビデオトランスコーディング市場レポートに基づいています。サーバーあたりの平均コスト (\$6200) を使用し、ストリームあたり平均コスト (\$1119) で除算し、ラックユニットあたり 5.54 ストリームの平均値を算出しました。

## 企業ロゴ

<http://release.media-outreach.com/i/Download/1489>

## アーティセン・エンベデッド・テクノロジーズについて

アーティセン・エンベデッド・テクノロジーズは、通信、コンピューティング、医療、航空宇宙、工業などの各種業界向け高信頼性電源と組み込みコンピューティングソリューションの設計と製造で世界をリードしている企業です。40年以上にわたってアーティセンは、コスト効果の高い先進ネットワークコンピューティングおよび電力変換ソリューションにより、お客様の開発期間短縮やリスク軽減を支援し、信頼され続けてきました。アーティセンの社は米国・アリゾナ州テンピにあり、10か所のCOE（中核研究拠点）、4か所のワールドクラスの製造工場、世界各国でのグローバルなセールス&サポート拠点などを有し、世界各国で20,000人以上の従業員が働いています。

アーティセン・エンベデッドテクノロジーズ、アーティセンおよびアーティセン・エンベデッドテクノロジーズのロゴはアーティセン・エンベデッドテクノロジーズの商標とサービスマークです。他のすべての製品名およびサービス名は、それぞれの所有者の資産です。

© 2015 アーティセン・エンベデッドテクノロジーズ。

## メディアお問い合わせ先:

Alice Hui

+852 2176 3548

[Alice.Hui@Artesyn.com](mailto:Alice.Hui@Artesyn.com)